

世界平和とスポーツは、やっぱり不可分だと思ふ今日この頃

JM1LZT 富山俊一

北京で冬のオリンピックが終わり、パラリンピックが始まりました。「運動音痴」な私は、あまり熱心な視聴者ではありませんが、それでもやはり気にはなります。北京からの報道をチラ見しながら「にわかサポーター」になってる自分に気づき、照れ笑いの日々だったのは、ついこの間のことです。日本の選手が活躍すれば、やはり素直に嬉しい。テレビの前でガッツポーズしちゃったこともありました。ある人の指摘によれば、オリンピックやワールドカップは、ある種「戦争の代償行為」だそうですが、結構納得しちゃいます。「ルールのある究極の戦い」は、アマチュア無線のコンテストにも通じます。その昔「ラジオスポーツ」という呼び方を旧ソ連でしていると聞き、なるほどと感心したことがあります。「勝ったからといってお金になるわけじゃないけど、勝つとなんだかうれしい♪」って、ステキだと思います。一流のアスリートのみなさんは、国際大会で活躍出来るレベルになるまでに、多分想像を絶する時間、労力、お金を費やしてきてるはずです。しかし勝負の世界は非情。日ごろどんなに素晴らしい結果を出していようと、「本番」で決められなかったらそれまで。一発勝負の緊張感は見るものを酔わせます。

「ルールが許す中の最善を尽す」からこそ、スポーツは美しいのだと思います。ルール無用の単なるケンカとの決定的な違いです。欧州で起きている戦争という名の「ルール無用の殴り合い」は、見ている

者を、ただ憂鬱な気持ちにさせるだけ…

「戦争の代償行為」としてのスポーツ、今だからこそ大歓迎です。残念ながら肉体を駆使するアスリートにはなれませんが、せめてラジオスポーツを通じ、「ルールのある戦い」を繰り広げ、世界平和を祈ることが、今の私に出来る、戦争に対するささやかな抵抗かもしれません。

かつて「ラジオスポーツ」を提唱していた国の指導者のみなさんに、今こそ、その価値に気づいてほしいと思わずにはられません。